

昭和二十一年二月一日大島浩ノ訊問調書抜萃

答、・・・私ガ貴官ニ對シ指摘致シ度イ事ハ日本ノ

大使館附陸海軍、武官ハ當該大使ノ管轄下ニ在ルノデハナク、直接ニ東京ニ在ル夫々ノ最高司令部ニ對シ責任ヲ負フテキル點デアリマス。大使館員デアルト言フ點カラスレバ彼等ハ當該大使ノ下ニアルノデアリマスガ彼等ノ職務ニ關スル限り彼等ハ東京ニ於ケルソノ軍首惱者ニ對シ責任ヲ負フノデアリマス。

問、彼等ハ大使館附武館タル地位ニ基キ二〇間ノ協約、條約乃至ハ〇際協定ニ立到ル様ナ交渉ヲ他ノ〇ノ軍部ト試ミル權限ヲ與ヘラレテキマスカ  
 答、ソウデス。若シソレガ嚴格ニ軍事ニ關スル事柄ニ就テデアツタラ大使館附武官ハ大使ヲ通サズニソレ等ノ事ヲ論ズルコトガ出來マス。・・・私

ハ更ニ進ンデ申述ベル前ニ茲デ強調シテ置キタイ事ハ彼等ハ日本ノ陸軍ノ意見ヲ表明シテキタノデ日本ノ政府ノ意見ヲ發表シテキタノデハナイト言フ點デス。何故ナラバ若シ政府ノ意見デアレバソレハ大使ノ職務權限ニ屬スル事柄デアツタカラデアリマス。

問、獨逸ニ於テ「リツベントロツブレ」ソノ他誰カガ若シ日本ノ軍部ヲシテ此ノ考ヲ押附ケルコトガ出來タナラバ日本ノ軍部ハ當時悉ラク外務省ヲ説得シテ右意圖ニ從ハシムルコトガ出來ル様ナ

2156c-22

答、

地位ニアツタト言フコトモ亦事實デハアリマセ  
ンカ  
ソウデス。ソレハ一點デアリマシテ陸軍ガ日本  
政府ニ此ノ協定ノ締結ヲ押附ケルコトガ出来タ  
デアラウ程ノ力ヲ有シテキタコトハ間違ヒアリ  
マセン。第二ノ點ハ私ガ曩ニ強調シタトコロデ  
「リツベントロツブレ」ハ當時公ノ地位ニ居ナカ  
ツタト言フコトデス。特ニコノ點ニ關シ彼ハ日  
本ノ陸軍ガ如何ニシテ滿洲ヲ占領シタカラ知ッ  
テキマシテ、ソレ故必然ニコノ點カラ日本ノ陸  
軍ハコノ種ノ條約ノ締結ヲ推進スル最モ強力ナ  
地位ニアルモノト判斷ヲ下シテキマシタ。・・・  
私ハ若シ陸軍ガコノ協定ヲ欲シナカツタナラバ  
コレニ就キ何等ノ條約モ成立シナカツタデアラ  
ウト言フコトラ申上ゲラレマス。

昭和二十一年二月一日大島浩 同十八頁及十九  
頁